

NEWS Letter



男女共同参画 国際シンポジウム 「女性研究者の育成と支援」開催

11月12日(金)



銀杏並木が黄金色に輝く山形大学小白川キャンパスで、教職員・学生・一般の参加者約130名を迎えて、男女共同参画国際シンポジウムが開催されました。国内外で活躍されてきた講演者の体験に基づくお話は力強く、勇気づけられる内容でした。



郷 通子氏

女性研究者のエンパワーと活躍にむけて

講演：郷 通子氏(大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構理事・前お茶の水女子大学長)

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構理事で前お茶の水女子大学長の郷通子氏は、各地でのご講演で多忙中、山形に初めてお越しいただきました。これまでの経験を女性研究者のエンパワーメントに役立てたい

革も行いました。

2人のお子さんが幼い時は確かに研究は困難でしたが、最新の情報には目を通していたこと、下の子がようやく6歳になった年に発表したタンパク質の立体構造についての新しい概念が海外の研究者に注目されたこと、その後は時間もあり研究に専念できて現在があること、これらのことから是非子育て期を乗り越えていい研究を続けてください、という熱いメッセージが伝えられました。また、海外の研究者との学際的な研究協力ネットワークの確立を提言されました。

最後に、ハーバード大学、プリンストン大学、マサチューセッツ工科大学、ハワイ大学などで女性の学長が就任していますが、日本でも、女性研究者を積極的に登用させることがこれからのステップであると話されました。

という思いで、女性研究者支援を続けておられるとのことでした。

学長当時、学生との懇談会の際に1人の女子学生から「学長にはどうすればなれますか」という質問があったそうです。とかく「出る杭は打たれる」と言いますが、「出る杭を育てる」ことが大切で、その人の持っている力を伸ばすチャンスである、と話されました。大学役員の過半数を女性にしたり、公的な会議は17時に終わらせるという改

大学における教職員の採用と活躍を拡大するために ～男女共同参画に向けて～

講演：キャロライン・ケイン氏(カリフォルニア大学バークレー校 分子・細胞生物学部名誉教授)

続いて、カリフォルニア大学バークレー校の分子・細胞生物学部名誉教授キャロライン・ケイン氏から講演をいただきました。アメリカ分子生物学会の「Women in Cell Biology」部会に属し、長く女性研究者支援に当たってこられました。以下が、講演の内容です。

私は1960年代のバークレー校で、女性教員が皆無の時代に男社会だった科学分野を専攻する大学院生でした。家でも外でも女性差別の問題と向き合う毎日でした。現在では大分状況も変わり、2008年の女子学部生は約55%で、最も多いのがアジア系女性です。白人系が多いものの女性教員は3割弱になりました。そして多様な教師陣が多様な人々と向き合う学生を育てています。しかし、人材の多様性の実現は、長い間多くの大学で課題とされながら前進してきませんでした。法が定められても社会の考え方はどの国でもなかなか変わりません。教員や研究者の地位に就いている男性や女性は、もっと積極的に発言し実行すべきです。カリフォルニア大学バークレー校では、「家族に優しい制度」が2003年に改正されて、新入教職員のための育児環境の保証、パートナーのための就職情報

提供、選考時に家族ケアのためのプランクを評価から外すこと、育児における緊急時のバックアップ体制などが整えられました。そのおかげで、アメリカ国内でも優秀な人材、特に女性教員のより多くの雇用が続いています。

リーダーとして、あるいは同僚として、あるいは女性として、女性たちの成功を助けることが、男女共同参画でやるべきことなのです。もしリーダーならば、女性の参画を優先付け、女性候補者を賞にノミネートし、女性に様々な資源を提供することです。さらにも、あなたが女性ならば、研究者として成功するために積極的に活動すること、周りにいる女性の問題を把握すること、味方を見つけておくこと、要求を繰り返して伝えること、そして大学の課題をはっきりと丁寧に口にするなどが大切です。粘り強さ、優秀さ、メンターシップ、パートナーシップ、リーダーシップ、ネットワークがキーワードとなるのです。



キャロライン・ケイン氏

各種の女性研究者支援制度の紹介

妊娠・出産・子育てや介護などで一時期、研究が困難な状況に直面している女性研究者を支援し、研究の継続や向上を図るためのものです。利用を希望される方は、お気軽に連絡してください。

問い合わせ・申請先：男女共同参画推進室

研究継続支援員制度

目的：出産、育児、介護などにより十分な研究活動を行うことができない女性研究者の研究活動を支援します。

対象者：①妊娠中又は小学校6年生までの子育て中の常勤研究者（後期博士課程在籍者・医員を含む）

②要介護認定を受けている親族（同居別居不問）を介護している常勤研究者

③単身赴任などで2世帯以上の生計を営む常勤研究者

内容：研究上の必要な補助業務

（研究データの解析補助、実験補助、文献調査補助、統計処理補助、発表用資料作成補助など）

期間：平成22年度は、3月31日までの間で必要な期間。

平成23年度は、第1期6月末まで、第2期9月末まで、第3期12月末まで、第4期3月末までの間で必要な期間。

支援員：本学学生（指導関係にある学生以外）、卒業生、支援員、希望者

募集：各期ごとの募集の際に申請書を提出してください。

ユビキタス・ワーキング・システム

目的：これまで学外からはできなかった業務の一部を、学外からも行えるようにすることで、利用者の業務と家庭生活との両立を支援します。

対象者：学外で業務を行う必要のある山形大学の教職員で、性別、職種、職位などを問いません。利用申請書を基に、男女共同参画推進室長が利用の可否を認定します。

内容：当面、山形大学ホームページ上の「学内のページ」の閲覧と「購入依頼・旅費請求システム」の入力が学外から利用できます。

申請：申請に決まった時期はありません。

認定・登録後、パスワード・IDを連絡いたします。

利用時の注意：

- ・利用者は別に定める「ユビキタス・ワーキング・システム利用について」を厳守し、安全性の維持に努めてください。
- ・本システム利用は、各キャンパスの情報系センターに利用登録をしていることが前提となります。

メンター制度の導入に向けた講習会

メンター制度の概要

目的：若手女性研究者の研究・教育力の向上のため、先輩研究者（メンター）との信頼関係を構築し、若手を支援する制度。

支援対象者：助手・助教・博士後期課程在籍者・ポストドクター・医員、在籍3年以下の新任者で希望する者

メンターの対象者：教員・退職した研究者など、学内・学外を問わない。

支援内容：①相談者の研究キャリア確立やキャリアアップに関すること。
②教育活動に関すること。
③組織や環境への適応に関すること。
④ワークライフバランスに関すること。

「メンター講習会」にご参加ください！

2月 2日（水）13:00-17:00 米 沢・工学部第一応接室

2月16日（水）13:00-17:00 小白川・事務局棟第一会議室

2月17日（木）13:00-17:00 鶴 岡・農学部会議室

2月18日（金）13:00-17:00 小白川・事務局棟第一会議室

受講対象者：本学の教職員、名誉教授、退職研究者、大学院生、ポストドクター

※新人や若手の育成支援として、近年、企業や大学などでメンタリングが注目されています。この機会に、多くの方の受講をお勧めします。参加取りまとめは各学部ごとに行います。

第1回女性研究者交流会 lunch meeting を開催しました

12月27日（月）



山形大学に在籍しながら、日頃、女性研究者同士が会って話す機会が多くありません。他学部・他キャンパスとなるとほとんどないと言えます。そこで、女性研究者同士が交流する機会を設定したところ、5学部・基盤教育院他から13名の参加がありました。

「初めて会う方と話げできた。」「いつもと違う大学の雰囲気を感じた。」「女性だけでなく子育てや介護を相談したいと思っている男性もいる。」などの話が出されました。これらを参考に第2回交流会を計画いたしますので、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

女子高校生・大学生対象 女性研究者の裾野拡大セミナー開催

■工学部 11月2日(火)

座談会～先輩女性研究者と語る未来～

留学生を含め30名を超す女子学生が参加し、女性研究者との座談会が開催されました。現在、女性の学部生は約12%、大学院生は約15%ですが、教員割合は2.6%と少ない状況です。ロールモデルとなる研究者とのふれ



学生と女性研究者との懇談会

あい繋がりをつくることを目的に、工学部男女共同参画推進ワーキンググループの呼びかけで実現しました。

まず、高塚由美子先生(バイオ化学工学分野)と帯刀陽子先生(機能高分子工学分野)から、研究内容の紹介、研究に惹かれたきっかけ、女性研究者として思うことなどについてお話がありました。「研究が好きであること、好きであれば辛いことがあっても乗り越えていけること」などが共通に述べられ、将来の研究者へのエールも送られました。

続いて、「Cafe 吾妻」に移動し、コーヒーとケーキをいただきながら懇談会が行われました。学生からは、女性研究者の裾野拡大のためにもこのような機会がもっと早くあればよかった、女性の先生が自分の学科にもほしかったなど、日頃考えていることが率直に出され、研究者からも働いていく際の苦労話が飛び交うなど、和やかな雰囲気の中で有意義な会となりました。

■農学部 11月6日(土)

大学院生に聞いてみよう！ 研究生生活ってど～んな感じ？

農学部では、女子学生の学部比率は約50%ですが、修士課程への進学率は30%未満です。そこで、進学率向上をめ



会場からの質問を受け、説明する院生たち

ざし、高校生および研究室配属前の前期学部学生を対象に、大学院生を講師として研究紹介のプレゼンテーションと動植物細胞の顕微鏡観察会を行いました。高校生、大学生、教職員や一般の方約60名が参加しました。湯川由菜さん「なぜ、大学院に進学しようと思ったのか」、堀江亮太さん「学会発表、学会って？」、齋藤明日香さん「ある日の私ー研究室での実験風景」、稲田瑛乃さん「ある日の私ーフィールド調査」と題して、それぞれ発表がありました。

他県から参加した高校生からは、「秋田でのナラ枯れの状況」について研究内容に関わる質問が、学部学生からは就職活動や学会についての質問が多数あり、丁寧な説明が加えられました。

企画した木村直子准教授は、大学院生のプレゼンも工夫されていてすばらしく、双方にとって学びの機会になったと述べていました。

■人文学部 11月2日(火)

OGが語る日本近代文学研究

文学研究の道に進んだ人文学部卒業生との交流を目的に、金子優子教授、森岡卓司准教授のコーディネートで日本近代文学研究セミナーが行われました。

赤間亜生さん(仙台文学館・学芸室長)からは、仙台



学生・教職員42名が参加

文学館の事業内容の紹介とそこにおける研究者の役割について、水野麗さん(秋田工業高等専門学校・講師)からは、高校から大学、大学院、そして現在という自分自身のライフコースについての紹介や岡本かの子を中心とする近代文学及びジェンダー研究についてのお話をいただきました。

その後、インタビュー形式で大学院進学のかきかけ、山形大学での学生生活、山形大学の教員から受けた影響などについてお話がありました。最後に、参加していた学生から、修士や博士課程への進学に迷いはなかったか、どう乗り越えたか質問がありました。文学や研究への興味を断ち切ることはできなかった、やれるところまでやってみようと思った、という答えがありました。また、学生時代に読んだ本やおすすめの本があれば教えてほしいという学生に対してアドバイスがありました。

■理学部 11月19日(金)

次世代を担う女性研究者による未来予想図 ～元気な女子が世界を変える～

「地元縁の深い新進気鋭の女性研究者の講演を通じて、科学の面白さと可能性を肌で感じてみよう」をテーマに、高校生・大学生・一般を対象に講演会が行われました。企画した大谷典正講



合成ゴム作りに挑戦する高校生

師の積極的な働きかけと県立山形北高等学校の協力により、女子高校生90名を含む計115人の参加がありました。

講演は、山形大学理工学研究科の高橋唯さんから「放射線を利用した年代測定技術とその応用」、住友ゴム工業株式会社の宮城ゆき乃さんから「環境にやさしいエコタイヤ創り」、筑波大学大学院生命環境科学研究科助教の横山亜紀子さんから「藻類・プロテイスの多様な世界」、仙台白百合学園高等学校教諭の鉢呂智子さんから「数の国のアリス！～ようこそ不思議な数の世界へ～」をそれぞれテーマとして行われました。

講演の後、宮城さんの指導で実際に合成ゴム作りに挑戦し、科学の応用の楽しさを味わうことができました。

女性研究者紹介【第5回】

◎女性研究者を順次紹介してまいります

金子 優子 先生

山形大学人文学部法経政策学科 教授



◎現在、どんな研究をしているのですか。

平成22年度から3カ年計画で、科学研究費補助金を得て「地域活性化のための市民活動量の計測とその寄与に関する研究」を実施している。

1980年代以降、アングロ・サクソン諸国を始め世界の主要諸国は、財政状況の悪化を背景に政府・公共部門の改革を迫られ、小さな政府を志向する潮流にある。そこでは政府の任務領域を見直し、従来から政府がサービス提供を行っ

ていた分野について民間部門の自主的な活動に委ねようとする改革が推進されている。我が国においても1981年の第二次臨時行政調査会発足以降、全政府的な行政改革が進められ、公共サービスの提供における民間部門の参入が推進されてきた。

地方政府においても、政府に代わり住民や住民が参加する団体など多様な主体が公共空間で果たす役割が重要視されてきた。このような政府の任務領域の見直しの流れの中で、地方分権改革の進展、財政状況の一層の悪化、少子高齢化、地域格差の拡大などにより、都市計画、地域交通、産業振興、環境保全、防災、福祉など市民の暮らしに直結する公共的課題への対応において、自治会・町内会などの地縁組織、NPOやその他の非営利セクターが果たす役割が一層拡大している状況にある。このような地域社会の組織が果たす機能については、従来からソーシャル・キャピタルとしてさまざまな社会問題解決へのひとつの道具として研究がなされており、そこにおいては地域活性化のためにソーシャル・キャピタルが大きな役割を果たすことが期待されている。また、平成の大合併の取り組みの中で、地域自治区制度が創設され、市民や非営利セクターによる地域活性化への主体的

取り組みを推進するための制度的枠組みが整備されてきた。

このような近年の市民活動を巡る変化を踏まえ、この研究においては、地域活性化に取り組む非営利セクターの活動について量的計測を行うことが中心的な研究内容となる。

22年度には、これまでに山形県内3市町、神奈川県内1市、三重県内1市のパイロット調査を実施している。今後、22年度中にさらに3市を調査予定である。そこで明らかになったことは、自治会・町内会などの地縁組織に着目することが重要であること、その地縁組織が行う活動全般について「地域活性化」に資するとの認識が自治体関係者及び住民に根強いことである。そこで、自治会・町内会等の地縁組織に着目して、地縁組織が行う地域活性化のための活動を中心として、参加者数、従事時間、従事日数を詳細に把握できるような調査設計を行いたい。このようにして把握した各活動への参加人数と費やした時間数により計測した活動量を貨幣評価することにより、その大きさを経済活動及び政府の財政支出との対比において把握するとともに、地域自治区の導入の有無などの制度的枠組みの影響について評価する予定である。

Hello! University 他大学の取り組み紹介

女性研究者支援モデル育成事業に取り組み、実績のあった他大学の事例を紹介するコーナーです

カリフォルニア大学バークレー校



カリフォルニア大学バークレー校は、研究者がより長く創造的で満足できる仕事ができるように、ワークライフバランスを支援し、

採用から退職までの様々なニーズに対応しようとしています。また、アメリカ国内の中でも積極的に教員の多様性の実現に取り組んでおり、女性をはじめ多様な民族や宗教、障がい、同性愛などの性的志向をもつ人々を支援し、アフタータイプ・アクションを実施しています。

大学内の組織として女性研究者協会があり、新任教員へのメンターシップや家族支援制度の紹介、ニュースレターの発行などを行っています。また、毎月、お互いのサポートとネット

ワーク作りのためのランチミーティングが開かれています。育児や介護などで、ケアサービスなどを利用する必要がある人には、1年に80時間分の補助があるということです。

研究者カップルの支援として、パートナーのための公募情報の提供や北カリフォルニア高等教育研究コンソーシアムの求人リストへのアクセス等の提供もしています。

(9月30日視察調査。カリフォルニア大バークレー校「Balancing Work & Life」2009 参照。)

Information ①

「第3次男女共同参画基本計画」が閣議決定されました 12月17日(金)

第2次基本計画では「新たな取組を必要とする分野」の一つとして示されていた「科学

技術・学術分野における男女共同参画」が、新たに第12分野として独立して設定されました。国際競争力の維持・強化と多様な視点や発想を取り入れた研究活動の活性化のためには、女性研究者の能力の発揮が不可欠であり、そのために環境整備・活躍促進を進めていくとしていま

す。各研究機関は実態に応じて積極的改善措置(ポジティブ・アクション)を推進し、一層、女性の参画拡大を進めるよう求めています。成果目標としては女性研究者の採用目標値を、特に自然科学系においては早期に25%を達成し更に30%を目指す、としています。

Information ②

「目指せ! 理系マドモアゼル!! 理系女子力UPセミナー」の開催

大島まり子氏(東京大学)、三浦佳子氏(九州大学)、八塚京子氏(山形大学)、日出間り氏(山形大学PD)のご講演と懇親会が予定されています。多数の皆様の参加をお待ちしています。

- 日時/1月19日(水) 13:30~19:00
- 場所/工学部講義棟中示範C教室

編集後記/女性研究者支援の具体的な支援制度を開始しました。多くの方からご利用いただき、ご意見を聞きながら改善を進めて参ります。2011年1月

全教職員と大学院生を対象とした男女共同参画に係るアンケート調査へのご協力大変ありがとうございました。回収数は1,863件(回収率48.2%)でした。現在、データ入力が終わりましたところですので、結果は3月に報告書とHP上で公表いたしますので、ご覧ください。



山形大学男女共同参画推進室

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12
TEL 023-628-4937、4938、4939
E-mail danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/